

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3072500477
法人名	有限会社 グループホーム開門荘
事業所名	グループホーム開門荘
訪問調査日	平成21年 11月 16日
評価確定日	平成21年 12月 22日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3072500477
法人名	有限会社 グループホーム開門荘
事業所名	グループホーム開門荘
所在地	〒647-1211 和歌山県新宮市熊野川町日足752 (電話) 0735-44-0770

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成21年12月22日

【情報提供票より】(平成21年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	34,800 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(110,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1300 円	

(4) 利用者の概要(平成21年10月 30日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊野路クリニック、熊野川歯科診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台にあるホームの玄関からは緑豊かな山並みや田園が見渡せ、自然に囲まれた静かな環境に恵まれている。明るいきりびんぐルームからは、花々が鉢植えされよく手入れされた広いウッドデッキへ自由に出られ、外気の中で四季折々の季節感が感じられる。入居者と職員の信頼関係が築かれ、家族のようななじみの関係の中での支援が行われており、入居者・職員が家庭的な雰囲気の中、思い思いの場所に座りながらうち解けて、なごやかに談笑している様子がみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題を踏まえ、職員の研修を積極的に奨励している。災害対策については地域での話し合いや水・米・乾物の備蓄などの改善に取り組んだ。運営推進会議については未だ年1回の開催にとどまっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は自己評価・外部評価を自己研鑽の機会と捉えている。評価を活かして日々の業務を改善していくとする姿勢で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバー選択は適切になされているが、運営推進会議の開催は、日程調節が困難なため、今年は年に1回しか開催されていない。開催までの期間が長いので報告内容が多くなり、討議内容が運営に活用されるには至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には入居者の状態を報告し適宜電話連絡を行っている。金銭管理については毎月報告書を送付している。苦情・意見については、面会時家族が職員・管理者に相談をいつでも受けられることを説明しているほか、ケアマネージャーが定期的に訪問・電話で聞き取り、職員全体で検討できるように配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周辺の住人とは日常的な交流が行われている。事業者は自治会に入会しており、定期の会合に参加して話し合いを持っている。地域の行事へは入居者と出かけている。ホームで行った敬老会には地域の人々も招待するなど、地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人の暮らしを支えていく独自の理念をつくりあげ、誰も見える玄関・居間に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや職員会議等で職員全体が理念の共有を図っている。また、入居者のケアで行き詰った時は、必ず理念に戻って話し合い、理念に基づき支援できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業者は自治会に加入しており、定期の会合に参加して区長に協力を要請している。ドーム祭り・餅まきなどの地域の行事には入居者と共に参加している。地域の人々も招待してホームで敬老会を行い地域の住民と交流できる機会を設けている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価・外部評価を、自己研鑽の機会と捉え、評価を活かして日々の業務を改善しているとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバー選択は適切になされているが、運営推進会議の開催は、メンバーの日程調節が困難なため、今年は年に1回しか開催されていない。内容はサービス状況の報告に留まり、評価や意見をサービス向上に活かすには至っていない。		運営推進会議に取り上げられた検討事項について、行動を起こし結果がでるのは2ヶ月程度であるとされている。地域でタイムリーに検討して向上を図るには2ヶ月ごとの開催が望ましい。地域で認知症高齢者を支えていく意義をメンバーに理解してもらい、定期的な開催への取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併後は市の対応がやや機敏性に欠けることもあり、連携が十分取れているとはいえないが、市に対しては折りあるごとに積極的に連携を図るように努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には状態を報告し、適宜、電話連絡を行っている。金銭管理については毎月送付している。ケアマネジャーの交代や体調不良での不在から、入居者個々の定期的な状態報告は以前ほどにされていない。		金銭管理と共に入居者の日常の様子や健康状態・職員の異動など、個々に応じた定期的報告が望まれる。様式を作るなど職員間で検討し、入居者個々の報告が定期的に行われることに期待する
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアマネジャーが定期的に訪問・電話で聴取して、職員全体で検討できるように配慮している。家族会は結成されていないので、苦情・意見については、来訪時家族が職員・管理者に相談をいつでも受けられることを説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	中心部より離れているので通勤時間の問題もあり、職員の異動は多いが、入居者の不安に対しては配慮されており、ダメージはみられない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の研修意欲を尊重して、実践者研修などの職員の研修の機会を確保するように取り組んでいる。資格習得に対しても、職員に奨励し機会を与えるように努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が地域の同業者と意欲的に交流する傍ら、地域密着型サービスケアネット和歌山(旧グループホーム連絡会)に加入しており、県下の事業所訪問の活動を通じて、サービスの質の向上をさせていく取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が家族から離れる不安を理解して、安心して暮らせるようになるために、受け持ち職員が馴染むまで寄り添って重点的に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のように安心できる関係作りが構築されており、職員は入居者より学び、支えあって一緒に暮らしているという気持ちを大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りや、普段の生活の中での入居者の言葉や様子から、一人ひとりの思いや暮らしの希望・意向をくみ取るよう努めている。センター方式の活用によりその人らしく暮らせるように個別の情報も詳しく記録されており、具体的支援につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえて、ケアマネジャーを中心に、チームで話し合い、入居者がその人らしい生活をおくれるような計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月毎の見直しを行うと共に、入居者の状態に応じ、家族の意見も加えチームで検討して計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の訪問介護事業所と連携して、眼科医のホームへの定期往診の際は、市街地から遠い地域住民にも声をかけ、受診の機会を提供している。有志の踊りの発表会も行われ、入居者の楽しみと共に、有志の人達の生きがいにもなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医には家族が受診介助しているが、必要に応じて職員が受診介助することもある。近隣の医療機関には協力が得られにくく、本人の希望・緊急性も配慮して遠方の医療機関を受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最後までホームで希望する家族もいるが、市街地より離れており、訪問看護・医師などの地域的問題のため対応が難しいので、現在は事業所としての方針を決めかねている。		重症化や終末期について、受けるにしても、受けないにしても、本人・家族の意向を確認して、早期に説明できるように事業所全体の方針を検討されることを期待したい
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄への声かけは、羞恥心に配慮して行われ誘導されている。入浴介助もプライバシーが損なわれないように配慮されている。個人情報の記録は事務所で適切に取り扱われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が思い思いに自由に過ごせるように取り組まれている。職員全員がその人のペースを尊重して、希望に添って支援している。入居者は好きなきに自室で過ごせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、希望や好みを聞いて提供しており、入居者と職員が談笑しながら、同じテーブルで食事をしている。職員が入居者のできることを尊重し、入居者自ら一緒に準備や片付けをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間帯に入浴が楽しめるように支援している。また、一人で入りたいという意向を持つ入居者には、気づかれないように危険がないように見守っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・包丁磨ぎ・手芸など、いままでの生活歴から本人のできること・張り合いのあることを尊重して、役割・楽しみごと・気晴らしの支援を個々に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って買い物のための外出支援を行っている。散歩中に地域の人とのコミュニケーションも図れるように支援している		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを職員全員が理解・実践しており、日中、玄関に鍵はかけていない。職員の見守りの中で入居者が自由に過ごせるように支援されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行い、災害時の水・米・乾物などが備蓄されている。地域での防災訓練にも参加予定であったが、雨のため中止になった。地域へ協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは入居者と相談して決めている。状態に応じた食事形態の工夫がなされている。食事量・栄養バランス・水分量についてチェックして、個々に配慮するように努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾られている小物は家庭的な雰囲気で、明るい生活空間となっている。親しい2、3人がおしゃべりできるテーブルや横にもなれるゆったりしたソファなど、居心地良く過ごせるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設当初、行政の指導で各部屋に備え付けた収納家具のため画一的な部屋が多い。その後備え付けの収納家具は必要ないとされ私物の箆笥等使い慣れたものや好みのものを持ち込んでもらおうと、家族にお願いしているが、持参する家族は少なく、個性的な居室は少ない。		馴染みのものの大切さが入居者の安心につながることを家族に十分説明して理解を得られることが望まれる。家族の協力が得られない場合は職員たちで、本人の好みに合わせ、その人らしい居室を作り上げていくような取り組みに期待する。